



# 千葉労働運動

10月5日全支部担当者会議開催!

# さらに全国へ 物販闘争を軸にはばたこう!

## 九五冬季物販闘争に起とう

### 全組合員の力の結集を!

九五冬季物販闘争の開始を告げる、全支部担当者会議が、一〇月五日、動力車会館において開催された。

会議に集まった全支部の担当者は、一〇月一〜二日に開かれた第二二回定期大会で確立された、「一二月ダイ改」阻止闘争を中心とした、秋季年末闘争への意気込みも高く、とりわけ九五冬季物販闘争の重要度を再確認するものとなった。

#### 十年目の節目を迎えた物販闘争

#### その集大成として新たな一歩

物販闘争は、この九五年で十年目の節目を迎えている。つまり九五冬季物販闘争は、この運動の十年間にわたる闘いの集大成をつかさどり、新たな闘いへの開始を告げる第一歩を印すものとなる。

大失業時代の到来という情勢下にあつては、闘いの原点である解雇撤回闘争の意義は、ますます鮮明かつ、全労働者の希求する労働運動の復権に直結するものとなっている。

この十年間の途切れることのない、全組合員の物販オルグへの決起と、全国で運動を支えてくれた仲間たちの力によって物販闘争は今日まで成長した。であるからこそ、「連合」を下か

ら切り崩す力量を今日持つに至ったのだ。

そしてこの闘いの進展が、「JR体制」を包囲する闘いを、いやがうえにも燃えあがらせ、「全国にはばたこう」運動の一翼を担いきり、昨年の九・一八集会から今年の八・一五集会の成功を導きだした。

さらにこの闘いを押し進めるために、冬季物販オルグを通して、全労働者を一・五全国労働者集会へと、大結集を呼びかけるものとして闘い抜こうではありませんか!

#### 物販闘争こそ運動の原点!

物販闘争といえども今後は、長期不況と「阪神大震災」の影響を不可避としています。しかしながらこの時期だからこそ、もう一度原点にかえって物販闘争を見つめ直し、不当解雇者を一人ひとりの組合員が、組合員

全員の力をあわせて守っていく運動へと捉え直さなければなりません。このことこそが、勝利への道を大きく切り拓くのです。全組合員は、九五冬季物販闘争にうって出よう!職場生産点の闘いと結合した、解雇撤回闘争を押し進めよう!

物販闘争を軸にさらに全国にはばたこう!

## 津田沼支部配転差別地労委配転への怒りを証言!

### 小倉君、山田君が証言

九月二十七日一〇時より、千葉地労委において「津田沼支部配転差別事件」第十二回審問が開かれ、配転された当事者として、小倉邦夫君(91・3配転当時支部長)及び山田邦夫君(93・4配転当時支部長)、そして動労千葉・田中書記長に対する組合側主尋問が行なわれた。まず最初に、小倉君が証言し立ち「配転者数二九名の内、二〇名が動労千葉組合員であった。支部長として責任をもってやっていた。その都度配転の基準が変わること自体が不当労働行為である」と弾劾した。

証言を行い、これまで一切を明らかにせず進めている「鴨川運輸区」の問題等を明らかにするとともに、これまでJRが行ってきた「運輸区」設置の狙いが動労千葉や国労の排除であったこと、さらに、鴨川車掌区でのJR-JR総連一体となった国労への介入攻撃、JR総連だけは希望どおり転動させている事実を明らかにし、「きわめて露骨な組合差別・組合排除であり、これがJRとJR総連一体となつて進められている」と、JRの労務政策=不当労働行為性を弾劾し、証言を終了した。次回審問では、今回証言した三名への、会社側反尋問が行われる予定となっている。津田沼支部にかけられた支部破壊攻撃を粉砕するために、本件地労委闘争をさらに強化して闘いぬこう。

### 一一・五全国労働者総決起集会に集まろう!

日時 九五年十一月五日(日) 正午より

場所 東京・日比谷野外音楽堂

大失業時代に抗する労働運動の真価かけ大結集を!